

新京日日新聞

刊夕
日九十月一
本紙は東京市紙
行所 東京市紙
電話 二二二二
代金 一月五元
三月十五元
半年三十元
一年六十元
外埠加郵費
印刷 印刷部
電話 二二二二
水増し 水増し部
電話 二二二二
水増し 水増し部
電話 二二二二
水増し 水増し部
電話 二二二二



支那空軍絶滅を期し

支那空軍絶滅を期し

海軍航空隊活躍

敵は分散配置、假装して保全

【上海十八日電】我が空軍は、支那空軍の絶滅を期し、海軍航空隊の活躍を期す。敵は分散配置、假装して保全を期す。我が空軍は、支那空軍の絶滅を期し、海軍航空隊の活躍を期す。敵は分散配置、假装して保全を期す。

北京、石家荘に

總領事館開設

邦人の北支進出に對應して

【北京十八日電】國民政府は、北京、石家荘に總領事館を開設する。邦人の北支進出に對應して、邦人の北支進出に對應して、邦人の北支進出に對應して。

仲介も甲斐なく

國府に誠意なし

外務當局聲明發表

【東京十八日電】外務省は、國府に誠意なし、外務當局聲明發表。國府に誠意なし、外務當局聲明發表。國府に誠意なし、外務當局聲明發表。

滿洲國の新スタートを祝ふ

國防軍の重責遂行と

警察機關の整備

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

治安部大臣 手

正山

は藤井滋司の脚色、冬島泰三の監督、坂東好太郎の主演である。他に高杉純之助、坪井浩、柳正夫、坂東彌之助、光川京子、北見禮十、助演、長春座、廿日封切。

時代の人を惹かれず他の男性
には目も呉れぬとは感心の至

卷證一大



市立醫院眼科指定

正確で明るい
メガネは
専門の當店へ
御用命下さい

岡田眼鏡店

新東京吉野町二丁目
電話(三)二四八三番

鍋物
お好み料理

皇軍戦捷
 ニユース
 大毎ニユ一
 四四三ノ一
 祖國を
 護る者
 十々堂
 著作 P・I・B 國史
 大平ル・ル・ル

時元祿十三年赤
 穂事件の前年!!
 老獯吉良上野介
 が受けた恥辱の
 數々に憤激の餘
 り例の松の廊下
 て及傷したと云
 ふお話を皆様は
 御存知ですか

サンデー毎日所載
 林不忘原作「及傷未遂」
 冬島泰三監督作品
 坂東好太郎三役主演
 坂東橘之助特別出演北見禮子助演

風間宗之助
 關原謙次
 高松英之
 坪内逍遙
 堀江正
 奈良義一
 天王寺愛
 宇野重吉
 北野健
 尾上松之助
 嵐山虎之助
 津田英二
 伴淳三郎
 石原英二
 光川新三
 助京
 寅子

版
告

風雲急を告げる歐洲アルプスの高峰を挟み埃伊國境を通過無盡に疾馳する
聞官廳地圖と合致の火花散り直るどろき響だ!!

平日十二時日曜十二時開映
料金階下 八十錢

長春座

新 京	三二	鮮 貨	易 協	日 あ	た り	よ り	猛 烈	な
哈 爾 濱	二二	九	九	九	九	九	九	九
齊 哈 爾	一一	一	一	一	一	一	一	一
奉 天	一六	一	一	一	一	一	一	一
安 順	一六	一	一	一	一	一	一	一

鮮貨易協日あたりより猛烈な
 る運動と化してゐるが、朝鮮
 郵船でもこの情勢に鑑み四月
 津浦線を經營してゐるが、
 れはそのまゝとし、更に直
 接路を開くものである

凡そ以上の如くであるが計域
方の背後地である東海地方の廣
漠たる未墾地に對しては日鮮
茶葉協會
五月歸郷
一志二片〇〇
一志二片三分

一、房職
二、新經
三、國件

二九卷六五
一志二片〇〇
一志二片三分

三月限	1110	1110
四月限	1100	1100
五月限	1090	1090

有の署名までしてあつた。
園児が、それで、いつさう
こゝは出来ない！ーはて、
うしたらよいか。

五十六

說町新井本
三〇六



卷之四

新京日日新聞

刊朝

【頁二十第報本報】

本報社址：東京市丸の内區有樂町一丁目
電話：二二二二
代印所：東京市丸の内區有樂町一丁目
電話：二二二二
支店：東京市丸の内區有樂町一丁目
電話：二二二二
支店：東京市丸の内區有樂町一丁目
電話：二二二二



外蒙國境防備強化

陣地の牒報漏洩恐れ

附近住民を強制移住

外蒙古自治区の防備強化のため、過激な兵隊に多量に兵隊を投入し、更に國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。一方、國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。一方、國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。

默殺された國民政府に 近く一大變化招来せん

蔣の迷夢、なほ抗日を豪語

蔣委員長は、國境沿いの防備強化のため、過激な兵隊に多量に兵隊を投入し、更に國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。一方、國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。一方、國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。

下野、外遊説を否定

蔣側近の外人顧問言明

蔣委員長は、國境沿いの防備強化のため、過激な兵隊に多量に兵隊を投入し、更に國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。一方、國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。一方、國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。

余漢謀、共產系の 軋轢深刻化する

余漢謀は、國境沿いの防備強化のため、過激な兵隊に多量に兵隊を投入し、更に國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。一方、國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。一方、國境沿いの住民を強制移住せしめ、國境沿いの防備を強化する。

支那は今や眞に 黎明期に入つた

川越大使引揚前に語る

川越大使は、支那の黎明期に入つた。支那は今や眞に黎明期に入つた。支那は今や眞に黎明期に入つた。支那は今や眞に黎明期に入つた。支那は今や眞に黎明期に入つた。支那は今や眞に黎明期に入つた。

江浦和縣山岳地帯の 敵一萬五千袋の鼠

近衛首相談

近衛首相は、江浦和縣山岳地帯の敵一萬五千袋の鼠。近衛首相は、江浦和縣山岳地帯の敵一萬五千袋の鼠。近衛首相は、江浦和縣山岳地帯の敵一萬五千袋の鼠。近衛首相は、江浦和縣山岳地帯の敵一萬五千袋の鼠。近衛首相は、江浦和縣山岳地帯の敵一萬五千袋の鼠。

北支方面支那敗殘兵の 歸順申込相次ぐ

第一回防空連絡會議

北支方面支那敗殘兵の歸順申込相次ぐ。第一回防空連絡會議。第一回防空連絡會議。第一回防空連絡會議。第一回防空連絡會議。第一回防空連絡會議。

緊急地方長官會議

第一回防空連絡會議

緊急地方長官會議。第一回防空連絡會議。第一回防空連絡會議。第一回防空連絡會議。第一回防空連絡會議。

帝國の取扱方針決定 中立法發動せず

帝國の取扱方針決定。中立法發動せず。中立法發動せず。中立法發動せず。中立法發動せず。

羽生眼科

漁業新條約案 ソ聯猶豫を要請

佛社會黨は 新内閣支持

人事往來

全滿中等學校 長會議終

太田國通社部 長北支

滿鐵有賀氏東京

訂正

移

院医田濱

姓名の神秘
電氣接學
東京寫眞學校
電氣講義録

電氣講義録
電氣接學
東京寫眞學校

電氣接學
東京寫眞學校

電氣接學
東京寫眞學校

電氣接學
東京寫眞學校

電氣接學
東京寫眞學校

電氣接學
東京寫眞學校

電氣接學
東京寫眞學校

電氣接學
東京寫眞學校

電氣接學
東京寫眞學校

一
去る十六日に發表され

りも強いものであることが明らかになされた。同じ日に首相も、勢くとも今までは南京政府を相手として和協條件についても細目にわたつて研究して來たのであるが、今後は一交渉を斷ち新興政府の成立を期待しこれを交渉相手としてゆくといふことを語つてゐる。

撫順東方約五キロの一帯

[illegible]

南京政府狼狽

年十二月九日發關通「帝國教
 國民政府を相手とす」
 大義に對し國民政府
 實行の反駁の聲明を發表
 の武裝抗日の目的を國
 生存を保障し國際的約
 を維持するに在る

中國は未だ和平の願望を捨て
 ないがしかし如何なる
 外蠻たりと其の主權を
 び奪たれど其の宗廟を毀壞
 するを許さるゝことは出来
 ないを宣はれるは中國は固
 立たる間に於ては其の非難諸國
 條約に縛られざるを以て
 中國政府は如何なる處境に
 處る

その主權及
 完備を擁護
 し和平を期
 如何なる條
 本國現に接受
 國內に於て
 域内、同時
 國內の行爲
 内閣、對外

反駁聲明を發し虚勢を

伊藤正徳

「力」それは武力、決意、和から成る。力」更に適切に用ゐられれば、其の用途は無限にふたなりである。如何に歐洲の外交に密接な關係を持つてゐる私を以て、ムッソリニに對して感ぜしむべきことはその力と精神一ぱいで内外の上に利用してゐるのを羨むるであらう。其意味においてイタリーはその實力を最高度に外交に利用してゐる點だ。それと無關係の事實を示すのがツェンネルである。さうして此點の外交政策別に、日本の外史を少し見るとも示されてゐるものがある。

われのでで茲に力と外の關係を略記して伊太利とし、私共の國たる日本とを對比する。

ことに興味を感じたのだ。ムッソリニは無類な強權外交者ばかり考へてゐる男では決してない。長年新聞社の主筆をした常識をもつて、外交をいかに導くかを理解してゐる男である。彼式武力を誇りて獨断的行動を爲し、然し彼等がその行動が戦争を誘致しないと見做當てるを得た場合にのみ、武力的示威を活用してゐるのである。

ムッソリニは彼等は戦争をトカイスターの流注で高揚した民衆の要求に必死の手段であると抱負したこともあるが、今日には戰爭を回避することを以テテ勇氣を失つたのである。

に絕對利益であつたと考へてゐるだけ、損益よく出来るだけ平和的手段によつてイタリアの膨張を抑制せたい行かざつて考へてゐるのだ、しかるに武力の示威は止まない、軍力の充實は中絶しない、空軍の擴張は緩慢にも、常に通常の攻防力を超過し、海軍もそれを活用するといふ姿勢をとつてゐる。而して恆にこれを戰爭の威嚇以内の臨に止める工夫をしてゐるのだ。だから、もしスベイン革命の援助が、本能的歐洲戰爭を誘發する危險を招いたとすれば、ムッソリニは巧みに托を捨てて陰謀に於いて、兵を動かさなかつた。然し、兵を動かさなかつた。

に、軍備の向上、パーセントに、最近ヨーロッパにイタリーが軍力を増したのは、力の活用による。ルバニアは既處理したが、關兵器を保持し、ラヴィアに常駐する。

之を討つ姿勢、今からは半ば自己満足から轉じ、

に見え、同時に威嚇を忘れた。

禁煙促進委員會

関係各機関及び防衛省職員
 に関し各該各機関の権限者
 委員会の構成
 修正し政策遂行の有効
 期したるが、今更なる
 具體的な防衛計画を
 各該閣議案の指導
 の黄金を期するため中央
 に禁煙促進委員会設置
 ことなつて、委員会
 及び任務は次の通りであ
 委員会の構成
 防衛省及び防衛省職員
 各該各機関の権限者
 委員会の構成
 修正し政策遂行の有効
 期したるが、今更なる
 具體的な防衛計画を
 各該閣議案の指導
 の黄金を期するため中央
 に禁煙促進委員会設置
 ことなつて、委員会
 及び任務は次の通りであ
 委員会の構成
 防衛省及び防衛省職員
 各該各機関の権限者
 委員会の構成
 修正し政策遂行の有効
 期したるが、今更なる
 具體的な防衛計画を
 各該閣議案の指導
 の黄金を期するため中央
 に禁煙促進委員会設置
 ことなつて、委員会
 及び任務は次の通りであ

とす、なほ地
中央委員會に
意見具申をな
しかしてこの

片委員會と民
毒分科會等の
適宜これを統

河北省ハ

陣

【天津十九日
長高凌霨氏は
省公署の陣容
たが、十七日

と云へる、換
リーの類母し、
しめる王夫を、

ランスはその二に指示する、進軍と、このシスの無爲傍觀の聯合解散したことは現狀フランスの爲に小協商の諸國としたのは言ふべきは自分の

る決意はなく、
も無い、最早
頼んで安閑と

いといふのが、
た吐の中であ
がらこれを利用
ランスは、その
久しく君臨した
軽くするの結
これに關聯して
事實は、ヒトラ
確信をもつて
實行したことが

財政廳長	張志
建設廳長	陳曾
教育廳長	陶

**北京を徹底臨
時政府布告**

【北京十九日發國通】臨時政府は十八日附布告を發し今北京は再び北平と稱するをぬ旨左の如く告示した

北平を北京と改稱して以公私團體にしてたは北平文字を使用するものある等今一律に北京と改め

孫吳の國防婦人ら

〔續美蘭國一戰前の一環〕
立つ當地圖防婦人會では十八
の兩日にわたり陸軍病院
參預、浦上醫官指導のもと
婦衛術、患者救護演義など
護術の講習をうけたが、會
における一日四十分、一週有
るものの一戰時看護力補充と
ふ重大性を自覺し、何れも
劍に奮闘をうけ、天性の器
さど相つて雅利以上の好成
を散めた。

辭別を奉告

へる祀元は佳節に當り内務省神祇局では東洋時局の安定とを天堯舜武に寓意し、全國十二箇府縣の官廳附祀、府社、村社等において祝詞とも併に辭別（このわけ）を奏することと決し、その各神社に通牒を發した。茲辭別には去る十六日正午政より外務省、關興社務府支持項大審明の趣旨を慶り、且國威宣揚、武運長久を祈願

もフランスが敢然武力をも
て抗議し來つた場合にはヒ
ラーはサツと兵を退いて外交

的交渉に入る決心であつたとは今や隠れもない事實とつてゐるのである。

るべきであつた、ドイツに決
戦の意圖のないことを洞察し
てその條約上の權利と、大砲

軍國としてのデモンス・トレイ
ションと云ふべきであつた
しからはラインの狀態が今日
如何なる新條約によつて規
定されてゐたであらうかは別
題として、フランスの外交上
の地位は今日よりも遙かに固
く且つ確々しいものであつた
ことを確信である

豫定で大谷婦人聯盟を代表
上海から天津、北京各病院

難傷病兵の慰問をすること
 となつたが、この間北京にお
 て江朝宗氏夫人を會長とし
 このほど生れた中日佛教總
 會の發會式にも列席、佛教
 徒の立場から日華提携に努
 する意である

商況欄

九月
 後

大新箱
新東取
一寄付
大引

●大連樣式

●化電日諾電同鏡箱五同日大	●學業魯毛甲新新錄品飾產新
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百

土木 二、三
豆餅 一、二

[illegible]

フランス陸軍は依然として強い、其武裝はドイツに優るものと見て間違ひない。

の調子は立派だが、その土氣
はして善へてはぬない、初
める國もフランス國境を侵
害しない事は明かである、即
ち自國防衛だけの軍事的立
場と稱して差支へない
かし、それだけではフラ
の大戦略は完全でないの
大陸における外交指導國
の地位は與つてられた

つ懸案だ、同時にその活
忘れるのも寶の持ち腐れ
に先見ある大政治家が外

力とを運用するの必要を歐洲の現場において折感られたのであつた、ムツニヤヒトラが、その力趣的に利用してゐることはない、またフアンスが悉を隔らせてゐるとも思はれた。右の傾向を説明す大實例であることだけはに言ひ得ると信ずるので

[illegible]

支那に與へるの書を携へ

東京鐵道一日露の後に滿洲
軍三千を運り活潑な大花
と號稱した退散軍少佐花大
作の助勤(七九)は救世事業
に盡すたが、数段の滞滿に
所屬親類のたゞ餘休を授け
て來たが、往年滿洲の言に
聞か「花大なるの一盲に面
談を冀へるがせと翁の熱血
は今回的事變に再び若し
反響するべきにあらずと愛國の
放浪するべきにあらずと愛國の

和客人員 一九八九〇五人
陸軍人員 一五九六四〇人
陸軍昨人員 一七五二九〇人
貨物發送 一五四八一七噸
同昨人員 一五四八一七噸
貨物積着 三三三九四噸
同昨人員 二〇四四四八噸

國總評議員會
國防部長會滿洲本國評議員會
は十九日午後一時日滿軍
人會議にて開催、關東軍兵事

部伏少佐の臨席を得、東條
首相の演説以下全席の演説に
類つた約三十名の演説、出船
軍品及び東京水運の平和の
爲に立すべしと日滿親睦の
大前提の緊要重大なる實務
に於て先づ一總一の友邦
滿洲にて之を立証具現す
べきであり本會は民間團體の
精華であり東亞民族の共存共
榮の爲に選進されたいと演説
あり會議に移つて本年の同會

の開催期を翌年に歸す旨東條
首相を協した

初等學校選給會
荏苒七月日本小學校長は八日
午後七時より三笠小學校にて
初等非道給選會を開き教務部
の現下非常時局に對する全
滿洲教育一強化策方に關
する見解を教育にたいして懇々協
議した

二千萬圓を突破

文に書き改め、上来る三月十日
何れが携へ渡することになつた。

協和會同島省本部の

工作方針

協和會同島省本部は十七日
本州における第四委員を開
議し、原副正部長を以下各

校務資金は大綱により創設さ
れ、將來預け入る人員、預金額
も非常な勢で増加の一途を辿
つて昨年の五月末七千箇圓で
あつたものが僅々十ヶ月中に
して遂に二千箇圓を突破し人
員も十三萬餘人あり二十三萬
餘人と云ふ飛躍的數字を示す

にまつた之を島部時代時代代
校務資金が僅々五万箇圓前後
に過ぎなかつたことと比較すべ

一〇箇
月十五日現在
人員 二二三、二七一八
金額 四三三萬

育成學校
四十名募集

生四名は育成學校本年に入學
した。資格は大正十一年四月

十一月未現在
金額 一七六、七六〇・八六
七八圓

十二月未現在
金額 二二七、九五六八
一八二、二九五・八八

集金制を廢し六ヶ所に納入
 始することとなつたから一段一本試験は百名の募集に

建國大學一期生
第二次入試

施行されたが、今回合格者
定近く第二次體格及び口頭
試験が行はれることとなつた

それ位にはよく分つてゐる
君の御高説を聞かなくても
だが、満洲で働いて、おま

「それは、そうと。此處
他所さんと違つて、格式を
ふのだから、とかなんとか

少いたらうなんて考へてゐる女給さんも居るだらうが、マラムも勘違いだよ。ドシム

實探し等詳細決定

子供新聞の
テキスト

な効果をあげ喜ばれてゐる。満洲の子供の時間は大連の

とか滿洲でも發賣して内地

ケ所に納入

學、商業兩校生徒は左の如

朝鮮人志願兵制度實施決意

木綿物に變へて、小ざつぱ

「そうでせうか！ 實は

飲んで許りもゐられない氣
するよ。それにしても、君

暇さへあつたら活動に行
り、茶房廻りをしたりする
を止して、もう少し緊張す

北支事務局勤務を命
（十六）

總務部 長井上乙彦
總務部 代理 坂本
新東京 代理 坂本

閣に参り参事を免す
總務部文書課長
参事 田
東京出張所長を命ず

奉天管理局局長爲丁
新北京放送局長
參事
新北京管理局副局長爲
參事

理事を命ず
副理事
理事部會計課長を命
齊々哈爾管理局長

會計課株式係長
書記 中

營務課財產係長心得
山海關電報電話局
書記 西

社員養成所庶務係長

牡丹江駐在を命ず
人事課

哈爾濱中央電報局通
電部附 書記

奉天管理局
書記
牡丹江駐在を命ず

興安大路四一九
院長 田島 靜
號三、二六〇七

牛、鳥すきやき
鰻かば焼、井

シン
世界無比
購入の好期



ツキ部
五間上り
八間まで
長期滞在
二週間以上



ルテホ

東葉子
電話(三)三五九〇番

銀座(市場入口)

力役行願
辯護士
別役増吉
朝日通二五番地
電話③二八八五

軍除用品
酒保用品
卸
大田市三河町二十九番地

三井火災保險

シリアベーターフ
毎は油注



機製張出京
3)電九三リ



父娘 (一)
今村久米子

妻へ上うへ 根紗智ねさち

「さう、親類にやつて明子さんの滞留を従父の手紙で、明子の年寄の御手紙で、それに今朝の夕の遊びの様子でも書いて云せてみて、その目手紙が思はれやう。昔年ではなほそんな風に考へた自分自身にけの解らない羞恥を感じざるで誰かにさしたるしやうに、既開パツと笑ひ込めたのがよくあつた場合も、自ら」

迄の時分づつと言ふものと違ふが落着いたと言ふものゝしてきた。千鶴の小きな茶の鉢小桶に入つてもぐり一杯の湯から覗いて見よう仕方がなかつた！

年の習い
人の背より
足下の冷え
十分もむらけ通りぬの薬水を入つた。

ドガと言ふ名前の店だつた。黒と朱をも染へたる房

6

中村

燃えて進軍するチャハル作軍の最精銳○快速部隊の壯進軍を見て記者は感嘆たのである、山西の山嶽地に砂塵を捲き起し堂々朔州

△交通の要路。ガスを使用し、省者は三十日間、秋武庫まで、歩いて三、四十日の険路より、一と立てられた山口の下で、遠く陰山に面し、近頃は、露宿し、馬鹿山嶺、たぬき山の幼年兵が、△身附、入つたことを知り、銃支隊、部隊に従ふことに決まり、支隊を擁つて大同に引

進んで進軍するチヤハル作軍の部隊銃△快速部隊の、壯なる進軍を見て記者は感嘆したのである。山西の山嶺擁峙に砂礫を捲き送り、矢を射つ後に迅速撤退の堅固に方向つ進軍した長谷川、中島、吉、川、の快速部隊は八百四十名、古戦場を臨み、九日に長谷川に沿ひ、山西岳嶺の多雲な軍を虎口方に、壓するた、快速部隊を越え、激するた快速部隊が利用し、八十餘名、一個兵に、なる石玉の懸城を長谷川に、運搬して、虎口口の山嶺、

進んで進軍するチヤハル作軍の部隊銃△快速部隊の、壯なる進軍を見て記者は感嘆したのである。山西の山嶺擁峙に砂礫を捲き送り、矢を射つ後に迅速撤退の堅固に方向つ進軍した長谷川、中島、吉、川、の快速部隊は八百四十名、古戦場を臨み、九日に長谷川に沿ひ、山西岳嶺の多雲な軍を虎口方に、壓するた、快速部隊を越え、激するた快速部隊が利用し、八十餘名、一個兵に、なる石玉の懸城を長谷川に、運搬して、虎口口の山嶺、

に朔州へ引退し、大同を率へる、綏遠の要害を守る支隊は遠山山地を迂迴してジリリと迫る快速部隊の進拂はに上も見なかつたのである。環城の彼方に陰山山脈が屏を立てたやうに、東がら西

この原成を長安から蒲州に送つた。蒲州から蒲羅へ来た道筋は從山東北の蒲州に山船に乗船し、蒲羅に立寄り、それから大漢驛を略經し、その口から迴江、上流で山送をえて、杜井江から東安城に順つて三日のこゝで、前例をり隨使一行は出羽から室

五十人と共に崑崙國といふこ
とになつてゐるが、色な事情
から推測して今日のジャワで
あらうと推定されるところに
渡航して、大部分はその土
に殺されたたり、難儀で死ん
だりといふので、

皇帝も成敗の數寄な運命を
うて又海路日本へ歸さうと
たが成敗曰く「もう海はこ
り、少しか成るたは陸路
より海の少し方から歸ら
う」と、それではと言ふわけ

結締組織でも横紋の胸中を
察して推定を一年経上げて再
度の遣日大使を出すことに
成るも一行に加はつて日本
に歸ることになった。この時
大使官要請の案つた船が沈
没し、船中の御宴において酒
を賜ふ宴を設け、隣國の土產
せられることに簡便通り、
は舊中の御宴において酒を
使者一行が渤海を奏して、
とが記録に残つてゐる、

た、わが軍は夜間戦によつて、歸綏の兩城を占領すべく進軍を整へたのである。歸化、遠南城とも燈火一つ見えず唯犬の遠吠えのみが凍つたを越えて陣營に聞えて來た。

一方京畿線に沿ひ緩急城に
撃中の蒙古軍は十三日夕刻
遠東方白塔驛に進出し快速
隊と協力一帯に緩急を占領
べく進撃を開始したのである

緊急対策建議
右二書 國內古油資源開
の要を説いたパンフレッ
である（東京市麹町區内
町一ノ五、燃料國家研究
△滿洲評論（一月十五日）
時評「本年滿洲國總理
に就て」滿洲物第三を

財政部東、南、西、北、中、五區、各派員、分赴、各、省、市、縣、調查、各、項、稅、捐、之、徵、收、情、形、以、資、整、頓、並、派、員、分、赴、各、省、市、縣、調查、各、項、稅、捐、之、徵、收、情、形、以、資、整、頓、並、派、員、分、赴、各、省、市、縣、調查、各、項、稅、捐、之、徵、收、情、形、以、資、整、頓、

す。歡迎や送別などの席には必ず詩文の應酬、唱和はれそ、從つてこちらとしても下手な人間は席に出せなし、渤海使應援の任に當つ人々の名を見ると、詩人、

のオムパレードである、
 菜平、都赤腹弟の都良香、
 原佐世、備前、三善清
 野雲、紀長谷雄、菅原清、
 子の教達、大江朝初など、
 と宗良卿から、大江朝初期に
 ての人材を網羅した概が

總代理店

東京 大塚
株式會社
玉置商店

日東紅茶園製

日東紅茶

市内各食料品店にありませう

持撰青レベル
精撰黄レベル
ダーシリンの香
アツサムの粹

